

石川町の史実

題字：有波良枝

掲載日 平成二十四年十一月三十日

作成者 明治大学商学部 中川ゼミナール 石川町プロジェクト

はじめに

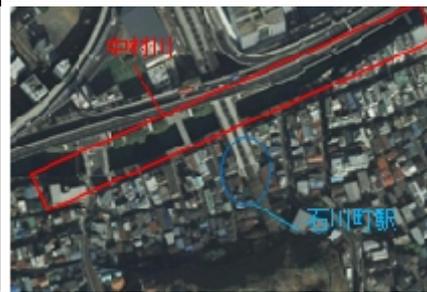
中村川の変遷

この度は、私たち明治大学商学部中川ゼミナールのプロジェクトの一環として記事を掲載させて頂くことになりました。記事の掲示にお力添え頂いた方への感謝をお伝えするとともに、私たちがここ石川町で行っているプロジェクトの内容を簡単に紹介します。ひとことで表すならば、ずばり「デジタルアーカイブスの作成」です。石川町に関する資料を収集し、データ化して一か所にまとめて保存するという活動をしていきます。この調査内容を、どうかして石川町の皆様で共有できないかと考えた結果、掲示物の作成へと至りました。毎月記事を更新していくので読んで頂ければ嬉しいです。

執筆：上田晃隆



今回は石川町を流れている中村川について述べていく。中村川の変遷について大きな出来事が二つ判明している。一つは水上生活の衰退。もう一つは護岸整備が挙げられる。石川町には水上学校ができるほど水上生活者が多く存在していた。日本水上学校が開校した一九四二年に中村川の水面上生活者は最も多かった。中村川は現在年に一回船が通る程度で目立った利用はないが、昔は違っていた。当時、商売は主に舟運によって行われていたため、



かつて問屋街であった石川商店街にとつて、中村川はなくてはならない存在だった。水上学校は親がだるま舟で働いている子供たちが住む校舎であった。石川町付近の水上学校は見晴トンネルの上であり、そこから子供たちは地元の学校に通っていた。外国人もいたようだが、特に特別クラスというものを作っていたわけではないので、外国人と一緒にのクラスというのは普通だった。しかしながら、この水上学校も一九六七年に閉校し、この頃から中村川による舟運も衰退し、水上生活もなくなっていく

た。一九七八年に首都高速道路神奈川一号线が完成したことで中村川の景観の変化が始まった。現在の中村川は護岸整備によって昔とは違った様相を呈している。この護岸整備は一九八〇〜一九九〇年に行われた。なぜこの護岸整備が行われたのかというと、商店街だけでなく、その裏側も通れるようにすることで、商店街と護岸整備によって新しくできた道の両方から商売をしていきたいという考えから行われた。当初の予定としては車も通れるようにしたかったが、土木会

社から地盤の弱さを指摘され、歩道にすることに決まった。このようにして現在の中村川がある。

執筆：山川貴広

参考写真：一枚目（一九七〇年代の中村川） 二枚目（現在の中村川） 三枚目（石川町航空写真）

広告募集

私たちの記事に広告を載せたいという方を募集しています！

こちらの宛先までメールをください！

akitakanakana@excite.co.jp

グルメレポート



甘味処 いるり

第一回目は「ガチでうまい横浜の商店街あまいものナンバーワン決定戦」通称「ガチあま〜」で銅賞に輝いた「フルーツ生クリームあんみつ」 六五〇円を提

執筆：石川祥太

供している「甘味処いるり」さんにお邪魔させて頂きました！昭和四九年から営業しているそうです！お店のこだわりはすべての食材が国産なところで、素材に対する意識の高さにはシビれてしまいました！さて、そんないるりさんで注文したのはもちろんフルーツ生クリームあんみつ！



どの食材も上質で美味しかったのですが、特に生クリームが濃厚で口溶けもよやくやみつきになってしまいました！お店を切り盛りしている後藤さん夫妻も気さくな方たちで、とても居心地の良いお店でした！マイホームのような雰囲気でも度々通いたくなること請け負いです！まだ行っただことのない皆さんは、ぜひぜひ足を運んでみてください！